

近代化遺産の保存と活用

岡山近代化遺産研究会

活動の目的

平成19年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産一覧表に記載され、日本の産業遺産に対する関心度が高まった。また平成26年と27年の「富岡製糸場と絹産業遺産群」と「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録からは、近代の産業遺産、いわゆる近代化遺産への注目度が高揚した。岡山県では平成15年度と16年度、約1,700件を対象とした「近代化遺産総合調査」が行われ、犬島製錬所や児島湾開墾関連遺産など岡山県を代表する近代化遺産の歴史的・文化的価値が知られるようになった。産業考古学会は平成26年、貴財団からご助成をいただき、学会員だけでなく一般の方々も対象とした全国大会を就実大学で開催し、多数のご参加をいただいた。また見学会で訪れた犬島・児島湾では予想を超える大きな反響をいただいた。そこで岡山県の方々により広く、近代化遺産の産業考古学的・文化的価値を認識していただくこと、保存・活用への機運を高めることを目的に、再び貴財団のご助成にあずかり、平成27年度から29年度までの3年間に15回の講演会と3回のシンポジウムを開催した。

活動の内容及び経過

平成29年7月から30年3月までは「近代化遺産の保存と活用」をテーマに、講演会5回とシンポジウム1回を開催。来場者総数436人。

計画立案、講師招聘、会場予約、共催・後援・協力・助成・協賛申請などの講演会準備。チラシデザインと印刷の依頼。チラシの郵送、官公庁、博物館、公民館、観光案内所へのチラシ配布依頼、DM作成と郵送、ラジオ出演、マスコミへのPR等広報活動。講師へのレジュメ原稿依頼、レジュメの作成、アンケート用紙の準備、講演会場のサイン作成と会場準備。進行を含む講演会・シンポジウムの開催。アンケートの集計、各種団体への成果報告。以上を行った。平成29年度はシリーズの集大成として「近代化遺産の保存と活用」をテーマに、「岡山における近代建築の保存と活用」、「土木遺産の保存と活用」、「鉄道遺産の保存と活用」、「産業遺産の保存と活用」、「近代化遺産とグローバル・ストラテジー」という5回の講演会と、第1回から第4回の講師をお務めいただいた上田恭嗣ノートルダム清心女子大学教授、樋口輝久岡山大学准教授、小野田滋鉄道総合技術研究所部長、清水憲一九州国際大学名誉教授をパネリスト、第5回の講師・伊東孝産業考古学会会長をコーディネータにシンポジウム「近代化遺産の保存と活用」を開催した。



活動の成果・効果

ご来場くださった方々には毎回アンケートのご協力をいただいた。アンケートを集計したところ、講演内容が高く評価いただけた、こういった分野の講演を希望する、見学会を希望する、平成29年以降も継続した開催を希望する、年1回でも開催を、などといったご希望が多かった。ご来場くださった方々は皆さん熱心に耳を傾けてくださり、メモをとる方も多かった。また質問も多く、会場の後片付けが毎回大幅に遅れた。回を重ねるに従って常連者が増え、新規来場者の数も増えた。3年間の公演記録は近い将来、編集して岡山市の出版社から刊行する予定である。

今後の課題と問題点

毎回平均5人の新規来場者があり、アンケートにDMを希望すると書いてくださった方も増えた。新聞の催事欄等には掲載いただけたが、来場者数が大きく伸びることはなかった。将来の開催に向けては、より来場者数を増やすための新たな仕掛けが必要である。その手段は今後の大きな課題である。併せて、テーマ設定や切り口を変えるなど、若年層の来場につながる努力と広報活動が必要である。また、ご希望の多い見学会の実施を検討する必要もある。

- 代表者：伊東孝 ●所在地：岡山市北区奥田西町
- TEL：086-207-2911 ●E-MAIL：nkonishi@kiui.ac.jp
- 設立年：2014年 ●メンバー数：11名